

公開講座 021：高齢社会における「つながり」

日 時：12 月 5 日（土）13 時～17 時（4 時間）

場 所：教育文化ホール中会議室

定 員：70 名

人と人のつながりが希薄化している現代社会において、それらを再生したり、新たに創り出そうとする取り組みがあります。このような実践的な取り組みの背景にある高齢社会の状況や具体的な取り組みの内容などを解説し、今後の超高齢社会のあり方について考えます。

#### ○高齢者の孤独感からみた「つながり」の意味

安藤孝敏（横浜国立大学教育人間科学部・教授）

高齢者が一人で暮らしていると、「さびしい高齢者」「孤独な高齢者」と言われるようです。しかし、暮らし方の状況と心理的な状況は必ずしも一致するわけではありません。高齢者を対象に調べられた孤独感に関する研究の成果から、人とのつながりの様態とその意味を検討し、つながりを創出する取り組みについて考えます。

#### ○高齢化した団地での「つながり」の変容

小池高史（日本大学文理学部・助手）

高齢化の進む日本社会の中でも特に高齢化している住宅団地。都市部の郊外を中心に大量の団地が建てられたのは、住宅不足が深刻となった高度経済成長期のことです。建設当時から半世紀近く経過した団地に暮らしているのはどのような人たちなのか。団地という生活空間の中で、どのような人々の関わりが生じているのか。横浜市内の二つの団地の例を取り上げ、高齢化の進む現在の団地に暮らす人々の「つながり」について考えます。

#### ○法制度による「つながり」の創生

西森利樹（横浜国立大学 成長戦略研究センター・リサーチャー）

血縁、地縁による「つながり」の希薄化がいわれるなか、ここでは法制度による「つながり」づくりに着目します。はたして法律は人と人との「つながり」を創ることができるのでしょうか。医療、介護、成年後見など的高齢者に関わる制度を取り上げ、「つながり」の視点からそれぞれの制度をひも解きながら、法制度における「つながり」の今と、今後の「つながり」の創生のあり方について考えます。

◇講座の最後に、参加者との質疑応答の時間を設定します。